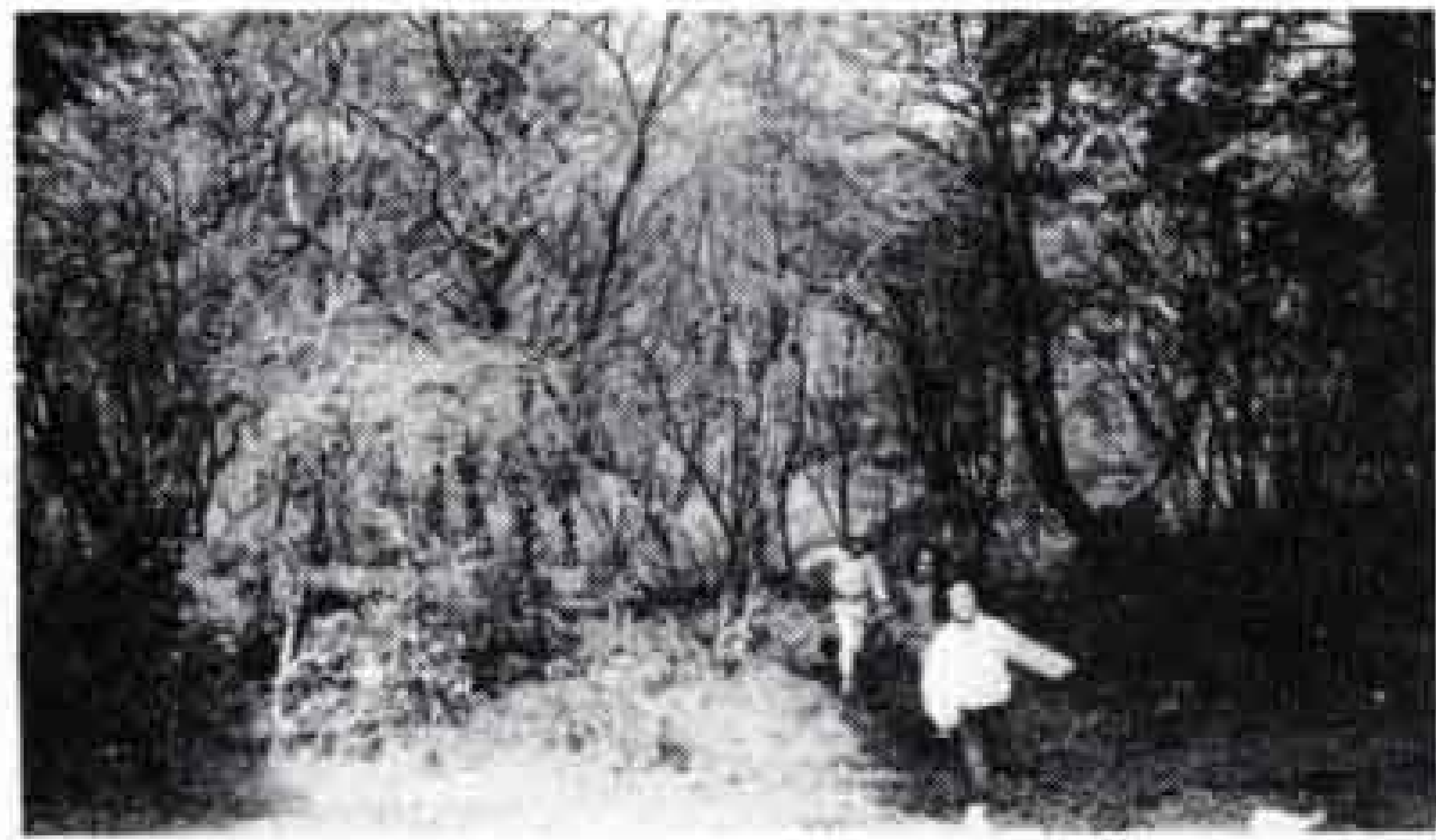




### 富士市のギネス ほんぞ No.1



△丸火の自然林

富士市は海拔0.7~3421mまで、海際から富士山の八合目まで多彩な植生が発達しています。

植物の分布を海拔高度で示したものを「植物の垂直分布」と言いますが、富士市は市町村単位の行政区で見ただけ、県内はもちろん、全国でも最も多様な垂直分布を持っているといえます。

海拔800mまでの暖帯は、シイ・カシなどの常緑広葉樹林帯、800~1500mの温帯は、ブナ・カエデなどの夏緑広葉樹林帯、1,500~2,600mの亜寒帯は、トウヒ・コマツガなどの亜高山性針葉樹林帯、2,600m以上の寒帯はカラマツ・タケカンバなどの高山性低木草本帯に分類されます。この中には33群集21群落の植物群落が確認されています。



望月昇さんと三女愛里ちゃん

高嶺町の望月昇さんは、第二十四回全国身体障害者スポーツ大会に出場し、二つの金メダルを獲得しました。

望月さんは身障一級の視覚障害者ながらも、盲人野球などに積極的に取り組むスポーツマン。今回は、ソフトボール投げと立ち幅跳びに出場し優勝しました。「長女と次女からメダルを取ってきてと頼まれていたので、二つ取れ、けんかにならないでよかった」と語る優しいパパ。ほかの視覚障害者の皆さんにも大きな励ましとなりました。

### 身障者国体で 二つの金メダル



高野進選手

### ソウル五輪出場の高野選手母校で語る

日本の陸上四百mの第一人者といえ、ソウルオリンピックで日本新を記録した高野選手（東海大助手・二十七歳）。

高野選手は十一月十日、母校市立吉原商業高校の演壇に立ち、後輩を前に「私のスポーツ観」と題して講演しました。オリンピックのことや学生時代の思い出など、陸上を通して体験、会得したことを語り、特に「スポーツでも勉強でも、集中力が大事。嫌なことも努力すれば必ず自分自身が成長する」と強調していました。

### ビリー先生 吉商で奮闘中



ウィリアム・ヒギンズさん

市立吉原商業高校の話題が続いてしましますが、吉商には、昨年からのアメリカ人の英語の先生が派遣されています。ことしの先生はフィラデルフィア市出身のウィリアム・ヒギンズ先生（二十三歳）。愛称はビリーと言います。富士市に住んだ感想は「ベリーナイス」。大変気に入ってくれています。

日本語をただ今勉強中で、ビリー先生に話しかけるには、それなりの勇気がいるためか、生徒の反応はまだ静か。でも、そのうちに本物の英語にふれた生徒が力をつけ、にぎやかになることでしょう。



### 昔話をパフォーマンス

神戸青年団の皆さん

神戸青年団の皆さんは、十一月二十七日に吉原市民会館で行われた「ふるさと芸能祭」で、郷土に伝わる昔話を謡曲で演じました。今回は、ノリにノッてる神戸青年団におじゃましました。

千ばつに悩んだ神戸の人々が、通りがかりのお坊さん（日蓮）の書いた曼陀羅を掲げて祈ると雨が降ってきたという昔話「雨ごい曼陀羅」。

神戸青年団がこの話を演じてみないかともかけられたのは十月中旬。それから、富士東高教諭の丸茂湛祥さんに指導を仰ぎ、全く新しいスタイルで、能仕立てによる練習が始まりました。

手にした楽器は、ギターやドラムならぬ、うちわ太鼓・鐘・木魚など勝手の違うものばかり。しかも、ふだんあまり見ないことも聞いたこともない謡曲というので、最初は不安でいっぱい。ところがそこはヤング。そのうちに、不安より好奇心が頭をもたげ、二十人を超える団員が、週五日、毎日二時間以上の練習をこなしました。

青年団のOB会や地元の方の皆さんも、新しい郷土芸能の出現にもろ手を上げてバックアップ。最近どうも影の薄くなりがちな青年団の存在を改めて知らしめました。

日蓮役で団長の野口綱夫さんは「せりふや合の手、動きが難しく苦労しました。しかし、久しぶりにみんなで一つのことをやり遂げ、団結が強まりました」と満足げ。地域と一体になったすばらしい青年団です。



△熱のこもった練習を続けた皆さん

千ばつに悩んだ神戸の人々が、通りがかりのお坊さん（日蓮）の書いた曼陀羅を掲げて祈ると雨が降ってきたという昔話「雨ごい曼陀羅」。

神戸青年団がこの話を演じてみないかともかけられたのは十月中旬。それから、富士東高教諭の丸茂湛祥さんに指導を仰ぎ、全く新しいスタイルで、能仕立てによる練習が始まりました。

手にした楽器は、ギターやドラムならぬ、うちわ太鼓・鐘・木魚など勝手の違うものばかり。しかも、ふだんあまり見ないことも聞いたこともない謡曲というので、最初は不安でいっぱい。ところがそこはヤング。そのうちに、不安より好奇心が頭をもたげ、二十人を超える団員が、週五日、毎日二時間以上の練習をこなしました。

青年団のOB会や地元の方の皆さんも、新しい郷土芸能の出現にもろ手を上げてバックアップ。最近どうも影の薄くなりがちな青年団の存在を改めて知らしめました。

日蓮役で団長の野口綱夫さんは「せりふや合の手、動きが難しく苦労しました。しかし、久しぶりにみんなで一つのことをやり遂げ、団結が強まりました」と満足げ。地域と一体になったすばらしい青年団です。